1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 9月 10日

【評価実施概要】

事業所番号	1290700036		
法人名	有限会社 銀河		
事業所名	グループホーム 銀河		
所在地	千葉県銚子市黒生町7249-3 (電話) 0479-22-2527		
評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成20年 9月3日	評価確定日	平成20年 9月 26日

【情報提供票より】(平成20年8月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年 10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤8人, 非常勤 1人, 常勤換算6.1 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有() 円 無 ()			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 150,000 円 無 ()	有りの場合 償却の有無	有() 無 ()	
食材料費	朝食	510 円	昼食	510 円
	夕食	510 円	おやつ	70 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月 10日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.8 歳	最低	80 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	島田総合病院、吉野クリニック、鈴木歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

海とのどかな自然に囲まれた環境の中「グループホーム銀河」がある。施設は木造造りを生かした設計で開放的且つ温かみのある構造となっている。施設内全面バリアフリーで、目が届きやすいよう造られており、安全性に配慮している。併設の小規模多機能ホームとの交流が盛んに行なわれ、レクリエーションや行事等に入居者が自由に参加している。また、小規模多機能ホームのリラクゼーション機器や特殊浴槽、カラオケ機の利用が可能となっており、幅広いサービスの提供を行なっている。職員がやりがいを持って業務に臨んでおり、明るくアットホームな施設運営がなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初の外部評価のため、改善項目はなし。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回が初めての外部評価となるが、会議の議題に上げ、意義や理解を周知している。自己評価においては、職員全員が記入し、管理者がまとめ作成している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>入居者、家族、地域包括センター職員、民生委員、グループホームについての知見者、職員を構成員として、2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。会議では、施設の活動報告や施設情報の説明を行い、施設理解を深めると共に、認知症・介護技術等の勉強会や質疑応答を行い、認知症の知識やグループホームの理解を深めてもらうよう努めている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>相談・苦情窓口や意見箱の設置を行なっている。家族の面会時や電話をした時に意見や要望を確認している。拳がった意見や要望においては、詳細に記録した上で、職員全員で話し合い改善に努めている。改善後は家族に説明し、納得してもらっている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣住民とは、日々の散歩時や外出の時に挨拶を交わり、顔なじみの関係が築かれている。地域の行事や施設内の行事において相互に招待し合うと共に、ボランティアの受け入れを行い外部との交流を図っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の生きる力を大切にしながら地域の人々の中で共に暮らし続ける為に家庭的な雰囲気の中で暮らせるよう、「尊び、寄り添い、響き合い」という独自の理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に1回行われている会議や毎朝のミーティング等で理念の確認を行っており、職員への周知徹底がなされている。職員全員が理念を意識したサービスの提供に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣住民とは、日々の散歩時や外出の時に挨拶を交わし、顔なじみの関係が築かれている。地域の行事や施設内の行事において相互に招待し合うと共に、ボランティアの受け入れを行い外部との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての外部評価となるが、会議の議題に上げ、意義や理解を周知している。自己評価においては、職員全員が記入し、管理者がまとめ作成している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族、地域包括センター職員、民生委員、グループホームについての知見者、職員を構成員として、2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。会議では、施設の活動報告や施設情報の説明を行い、施設理解を深めると共に、認知症・介護技術等の勉強会や質疑応答を行い、認知症の知識やグループホームの理解を深めてもらうよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	銚子市からの依頼で施設見学受け入れや講演会の講師派遣等を行なっている。また、市が主催している地域ケアサービス部会や地域ケア実務者会議に参加をしている。日頃から困難事例や業務に関する質問等で市と密に連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や手紙にて入居者の生活状況や金銭管理等の報告を行なっている。また、生活状況の変化等があった場合には、随時電話にて報告を行なっている。		ご家族や入居者に対して職員の異動や入退職の報告を行って頂く事により、ご家族との信頼関係をより一層深めていただくことを期待します。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情窓口や意見箱の設置を行なっている。家族の面会時や電話をした時に意見や要望を確認している。挙がった意見や要望においては、詳細に記録した上で、職員全員で話し合い改善に努めている。改善後は家族に説明し、納得してもらっている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員用の意見箱の設置や管理者が職員の悩み相談に乗る等、離職を軽減する工夫がなされている。入職があった際には、慣れた職員と一緒に業務を行い、できるだけ早く入居者と馴染めるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングをしていくことを進めている	外部研修には、経験や希望を考慮し積極的に参加をしている。研修後は、勉強会を開催し、職員全員に周知している。入職時には新人研修を行い、レポート提出等を通じて適切な育成を行なっている。月に1回の会議にて看護師による医療技術研修や事例検討を行い、職員の質の向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が主催している地域ケアサービス部会や地域ケア実務者会議にて困難事例の検討や情報交換を行い、相互のサービスの質の向上に努めている。また、市のケアマネジャー連絡会「てうしクラブ」の親睦会に参加する等同業者との交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>随時見学や体験入居を受け付けており、施設の方針や雰囲気を理解してもらって上での入居となっている。入居後は、家族と協力しながらできるだけ早く馴染めるように工夫をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>能力や希望に応じて家事等の生活活動を共同で行なっている。職員は入居者に対し、尊敬の念を持ち、人生経験や生活の知恵を学び、共に支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に、本人・家族から意向や生活暦等を聞き、記録している。また、日々の生活の中でのコミュニケーションの中から本人の意向を把握し、職員全員に周知している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画においては、本人や家族の意向を確認した上で、会議にて意見をまとめ計画作成担当者が作成を行なっている。ケアプラン委員会を設置し、適切な介護計画の作成に努めている。作成後は職員全員に周知していると共に、家族に説明し、了承を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月評価を行い、3ヶ月に1回介護計画の見直しを行っている。また、生活状況に変化があった場合、見直しが必要とされた場合は随時見直しを行なっている。見直しにおいては、本人や家族の意向を確認した上で、会議にて意見をまとめ計画作成担当者が作成を行なっている。ケアプラン委員会を設置し、適切な介護計画の作成に努めている。作成後は職員全員に周知していると共に、家族に説明し、了承を得ている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の小規模多機能ホームとの交流が盛んに行なわれており、合同の行事や外出会等楽しみを提供している。また、小規模多機能ホームのリラクゼーション機器や特殊浴槽の利用等入居者の希望や身体状況に応じた支援が行なわれている。個別・少人数グループで図書館や外食、理美容等への外出支援が行なわれ、入居者の希望に応じた柔軟な支援が行なわれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院以外にも希望の掛かり付け医への受診が可能となっていると共に、希望に応じて通院の付き添いも実施している。また、看護師の職員が薬や医療処置の指導を行っており、適切な健康管理がなされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約書において終末期・重度化においての施設の方針を明記し、家族に説明し了承を得ている。重度化や急変の場合には、職員、看護師、家族、医師にて連携を取りながら施設でできる限りの支援を行っていく。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人書類は事務所にて管理していると共に、個人情報の扱いについて厳しく指導している。会議にて接遇マナー等を取り上げ、指導や事例検討を行い、入居者のプライバシー保護に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課や取り決めはなく入居者個人のペースで生活してもらっている。入居者の希望に対し、柔軟な支援を行い、自由な生活を支援している。また、希望が言い出せない入居者に対しては、日々の観察やコミュニケーションの中から汲み取るよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出し・調理・片付け等能力や希望に応じて共同で行なっている。献立は入居者と職員が共同で作成している。外食会やおやつ会を企画・実施しており、入居者の食の楽しみを支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日実施されており、希望の時間にて入浴が可能となっている。浴室は広く設計され、浴槽の位置の工夫や手すりの設置にて安全性に配慮している。足浴・清拭の実施や、小規模多機能ホームの特殊浴槽の利用により、体調や能力に応じた清潔保持がなされている。入浴拒否においては、声掛けや時間の変更等にて対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーションインストラクターの職員を中心に、貼り絵や体操等レクリエーションが盛んに行なわれている。併設の小規模多機能ホームのカラオケ機やリラクゼーション機器の利用等様々なサービスにて入居者の楽しみを支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日頃から散歩や外出の支援を行なっている。個別やグループでの外出も行なわれており、図書館や買い物等に出掛けている。また、施設敷地内の散歩や庭での日向ぼっこが可能となっており、能力に応じた戸外への楽しみも提供している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵を閉めず、入居者の自由な生活を支援している。施設内は目が届きやすい設計となっており、安全面に配慮している。入居者が外に出た際は見守りや声掛けにて対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	煙探知機、消火器、通報設備が設置されていると共に、緊急持ち出し袋や備蓄の確保がなされている。消防署の協力のもと、年2回の消防訓練を行なっている。運営推進会議を通じて地域住民に対して緊急時の協力を依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	能力や嗜好に応じて食事提供がなされていると共に、食事や水分の摂取量を記録している。摂取量が少ない時は、時間の変更や間食にて適切な栄養の確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全面バリアフリーで、施設内は見渡しやすい設計となっており、入居者の安全性に配慮している。壁紙や照明等工夫し、暖かみある施設造りがなされている。窓は大きく日当たりが良く、外の自然を楽しむ事が可能となっている。リビングには、ソファやテーブルが設置されており、入居者が思い思いにくつろげるスペースとなっている。トイレは広く設計されており、赤い手すりを設置し、安全面に配慮している共に、ウォシュレットのボタンが大きく使いやすさにも配慮している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望により馴染みの物を自由に持込む事が可能となっており、入居者が居心地良く生活出来るよう配慮している。全居室にエアコン・換気扇が設置され適切な空調管理がなされている。一部の居室にて、仕切りを開放することにより二人部屋として利用する事が可能となっており、夫婦での入居にも対応している。		